

9月末、“独身最後の大物”と呼ばれた46歳のシンガーソングライター福山雅治と女優・吹石一恵の電撃結婚のニュースが列島を揺るがした。多くの女性からは悲鳴が上がり、「福山さんが結婚したので、会社休みます」などといった書き込みがネット上に飛び交い、飲み屋街でやけ酒をあおる女性たちが続出、彼女らのために割引セールを行う居酒屋まであった。また、福山さんの所属事務所「アミューズ」の株価が一時、5・4%安の5020円の安値がついた一方で、無関係な「福山通運」の株価が上がったりした。日頃はタレントの結婚を取り上げることのないNHKでさえ彼の結婚を報道。さらにこの余波は日本だけに留まらず、中国や韓国、台湾とアジア圏の女性ファンにまで及んでいるという。

しかし私が最も驚いたのは、多くの男性たちも彼の結婚にショックを受けたことだ。それも最近良く耳にする“結婚できない男”や独身気取りの面々だけではなく、何と家庭持ちのオヤジたちさえ狼狽した。「俺のようなただのオヤジと違って彼には一生独身でいてもらいたかった」と言ったところらしい。何のことはない、多くの人々が彼の独身人生にロマンを感じていたのだ。

いやはや実に愉快である。彼が結婚したからではない。人々が彼の“結婚”にムキになっているからである。未婚男女の同棲や事実婚が当たり前の世の中で、彼の結婚は、改めて結婚の重大さを人々に再認識させたと言っても過言ではない。

聖書には結婚の記述が多くあるが、圧巻は最終章に登場する、“神と人との結婚”である。

「私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。」ヨハネの黙示録 21章 2節、

が、それだ。人々が薄々気付いているように、やがて人類も宇宙もなくなる時が来るが、ここで言うエルサレムとは現在のそれではなく、天国での新しい都を意味し、“神を信じた人々”を指す。言うまでもなくキリストを信じた者はそこで暮らすことが出来る。要するに結婚と同様に神と人が共に暮らすのだ。「何をバカな！」と、大抵の人は神を信じることに抗いムキになる。「宗教にかかわりたくない」などとお茶を濁す人もいる。だが、“紙切れ一枚”の結婚と同じくそれは重大なことなのだ。

